

カルメル

霊性センターニュース



パナギア（聖なる方）

2016年10月

324号

## 福者三位一体のエリザベット

### 列聖記念を祝って

2016年10月1日

長い間待望されていた、フランス、ディジョンのカルメリット、福者三位一体のエリザベットが、今年10月16日午前10時15分から、サン・ピエトロ広場で、教皇フランシスコの司式による荘厳ミサの中で、列聖されることになりました。

「神は私の内、私は神の内に」というモットーや「三位一体への祈り」で知られる聖女は、110年前の1906年11月9日、リジューの幼きイエスの聖テレジアのように、26年という短い生涯を閉じました。それは、三位一体の信仰の神秘を祈りの生活の中で深め、神の現存、内在の神秘を徹底的に生きぬく生涯であったと言えます。

私は地上に天国を見つけました。天国とは神のことで、神は私の内に住んでおられます。このことを悟ってから、私にはすべてがはっきりしました。それで、私の愛する人々にこの秘密を知らせたいと思います。

今回の列聖を契機に、聖女の霊性が、日本においても、もっと多くの人々に知られ、信仰生活の糧とされていくようになることを、心から祈りたいと思います。

1880年7月18日	フランスのブルジェに誕生
1887年10月2日	父帰天（55歳）
1891年4月19日	初聖体
1901年8月2日	カルメル会入会
12月8日	着衣
1903年1月11日	誓願式
1905年四旬節	発病（アジソン病）
1906年11月9日	帰天
1984年11月25日	教皇ヨハネ・パウロ二世により列福

跣足カルメル修道会  
管区長 九里 彰神父



## 目次

心の泉	1
カルメル会の企画案内	17
東京	18
京都	24
名古屋	30
北陸	31
諸所の企画案内	35
年間購読(郵送)のご案内	46
編集後記	47

# 心の泉







### 第三卷

#### 第二章 神のみことばは、謙虚に聞かなければならない、

#### しかし多くの人はそれを重んじない

##### 1 主

「子よ、私のことばを聞きなさい。それはあらゆる哲学者や知恵者にまさる甘美なことばである。「私のことばは霊と生命である」(ヨハネ6・63)。それは人知でははかれず、空しいうぬぼれのもとにはならず、ただ静けさのうちに、謙遜と大いなる愛をもって、聞かなければならないものである。」

##### 2 子

「私は申し上げました。「主よ、掟についてあなたから照らされ、教えられる者は幸せです。彼には、苦しみの日を和らげ」(詩編94・12-13)、そしてこの世でも独り取り残されることはありません。」

##### 3 主

主は言われる、「私ははじめから預言者に教え、今も絶えず、すべての人に語っている。しかし多くの人は、私の声に耳を閉じ、耳を貸そうともしない。人は、神よりも、むしろこの世のことに耳を貸す。神のみ旨に従うよりも、肉の傾きに従おうとする。世間は、わずかな、はかないものしか約束しないのに、人々は懸命に世間に奉仕する。私は最高の永遠の善を約束する、それなのに人間の心は動じない。」

## いつくしみの特別聖年を生きる

— 10月 —



10月16日ローマにて列聖

### 三位一体のエリザベト

列聖 おめでとうございます

三位一体、それこそ

わたしたちの住まい

「わたしの家」

決して そこから

出てはいけない父の家なのです



～三位一体の聖エリザベト～ \*

わたしの一生に太陽の光がさんさんと注いでいたのは、「心の深みに住まわれる神」と親しくしていたからでした。\*

天国でのわたしの使命は、人々を自分自身から解放させ、単純かつ愛にみちた動きによって神に身を任せるようにさそいかけ、助けることです。\*

エリザベトとの「神との親しさ」は11歳のときからはじまりました。その時、エリザベトは、自分の名が「愛である神の家」だと言われて深く感動しました。その日以来、「わたしのうちに神さまが住んでおられる」という確信を強め、「神と親しさ」をはぐくんでゆきました。

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

\* 『神は私のうちに、私は神のうちに』 聖母文庫、聖母の騎士社

## 人を赦す (34)

くのり  
九里 彰

「どうして人を赦すことができないのか」という疑問は、固く結んでしまい、ほどけなくなった紐のようなものかもしれません。

赦せないと考える人には、それなりの理由があります。たとえば、自分の父や母、夫や妻、息子や娘、親友や仲間を、残虐に殺された者が、その加害者の行為を断じて赦すことができないと考えるのは、当然のことです。そのような行為を神も赦されないでしょう。

ダビデは、ヘト人ウリヤの妻バト・シェバの美貌に目がくらみ、策略をもってウリヤを殺させます（サムエル記下 11 章）。しかし「ダビデのしたことは主の御心に適わなかった」（11・26）のです。バト・シェバ個人が、このことを知っていたのか、聖書では定かではありません。もし知っていたならば、ひそかに憎しみを抱いたことでしょう。でも、そのことについての言及は何もありません。

神はダビデの行為を赦されず、バト・シェバが生んだダビデの子を打たれます。罰が下され、裁きが行われたのです。

しかし、現実には、このような裁きが行われないうちに思われることもしばしばでしょう。聖書にそのような箇所を拾うことは、枚挙にいとまがありません。

神に逆らう者の安泰を見て、私は驕る者をうらやんだ。死ぬまで彼らは苦しみを知らず、体も肥えている。だれにもある労苦すら彼らにはない。だれもがかかる病も彼らには触れない。傲慢は首飾りとなり、不法は衣となって彼らを包む。…見よ、これが神に逆らう者。とこしえに安穩で、財をなしていく。（詩 73・1-12）

預言者エレミヤも、不正を行なう者が栄えるのを見て、嘆き訴えている。

正しいのは、主よ、あなたです。それでも、私はあなたと争い、裁きについて論じたい。なぜ、神に逆らう者の道は栄え、欺く者は皆、安穩にすごしているのですか。（エレ 12・1）



## 十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (106)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

### ただで得た諸徳

諸徳に関する十字架の聖ヨハネの教えを、私たちは皆、知っています。青年時代に獲得された諸徳は、「選ばれたもので、神に非常に嘉されるものです。それというのも、この時期には、諸徳を獲得することに対し、悪習から来る妨害はより頻繁にあり、自然性はこれらの徳を失う方により強く傾き、またすぐに失ってしまうからです。」(『霊の賛歌』30・4。「さわやかな朝に選んだ花とエメラルドで」という句の解説の中で)。

これを書く数年前、とても重病であった修道女を徹夜で看病していたエンカルナシオン修道院に一晚滞在しました。実際には、彼はずっと修道女たちに、「どのように皆が慈しみ深く、謙遜で、従順でなければならないか、また天上のことや霊的な事柄についてたくさん語りました」。

このように、有名なアナ・マリア・グティエレスが目撃者として述べていますが、この話をこう結んでいます。

「そして彼はつけ加えました。これらの諸徳を獲得した後、神はそれらをただでくださったことを思いめぐらしなさいと」。

ここから、しなければならぬことをすべてした後、「私たちは無益な僕です」と言った福音書の箇所(ルカ 17・10)との間には、それほど大きな距離はないでしょう。おそらくまったくなくともよいでしょう。



## 年間第27主日

「もしあなたがたにからし種一粒ほどの信仰があれば、この桑の木に『抜け出して出る』と言えるだろう」(ルカ17:5~10)

バスケットボールのスターである少年がある夜、帰宅途中に教会の前でホームレスの人が寝ているのを見ました。彼はその人に「一晩中こんなところに一人でいて怖くないのですか」と尋ねました。ホームレスの人は、頭上のイエス像を指差して「いや、キリストを信じているから怖くないよ」と答えました。少年の人生はこの人の信仰の深さに大きく影響を受けました。

このホームレスの人の話は、信仰が家の基礎のようなものであるということを思い出させてくれます。基礎が確かでない家はしっかりしません。ところで信仰を強くするためには何ができるでしょうか。

私たちが本当に困っている時、誰が友人であるかがわかります。犠牲を払っても私たちのそばにいてくれる人が友人です。彼らは私たちのために時間があります。話を聴いてくれる忍耐と秘密を守る高貴さがあります。私たちが信頼し、当てにすることができる人たちです。同じように神と生きた関係を維持しているキリスト者は幸運です。その人は経験から、神が信仰を持つものを決して落胆させないとわかっているのです。

ほんのひとかけらの信仰でもすべての人間的経験より強いものです。それは神ご自身の創造的力に与かることにほかなりません。処女が身ごもり、神から人が生まれたのですから、人々はもう孤独ではありません。ひとかけらの信仰があったからです。水がぶどう酒に変わり、ぶどう酒が血になり、パンが増加し、人々はもはや飢えていません。これはすべてわずかの信仰があったからです。からし種のようなわずかの信仰があるだけで、望みのない人たちが望みを持つようになるのを見るでしょう。

イエスはこのことをとても強くはっきり仰いました。信仰は私たちの日常生活でそれほど重要だからです。いついかなる時でも信仰において善の方へと向けられるべきです。人々は私たちの信仰を見て、より善良になり、高められ、息吹きを受けるでしょう。ジャーナリストや編集者たちが受け手となるかもしれません。日常生活の最も大きく、最も力のある影響は信仰です。私の中にある神と共に私は不可能なことも実行できます。ただひとつの疑問は、どこからこの信仰を得るかということです。今日の福音がその解答を与えてくれます。キリストのところに行き、頼みなさい、「わたしの信仰を増してください」と。キリストはあなたの信仰を大きくすることができます。

(Beatrice)

本日の福音のテーマの中心は感謝です。重い皮膚病患者のサマリア人が一人、イエスに癒されたことを感謝するために戻ってきました。しかし一方では、九人のユダヤ人の患者は癒されたのは神の選民としての自分たちの権利であるとして戻ってこなかったという話です。この人たちは自分たちが受けた特別の恵みをイエスや神のおかげであるとは感じていないようでした。彼らは司祭から健康の証明を得ようと急いで立ち去りました。「ほかの九人はどこにいるのか？」とイエスはサマリア人と群集にたずねました。「ありがとうございますと言いに戻ってきたのは、たった一人なのですか？」

サマリア人は信仰と感謝のお手本として示されています。サマリア人の感謝と賛美は、受けるに相応しくない神の憐れみに対する当然の応えでした。ちょうどよい時にちょうどよい場所にいたこと、そしてそのような機会はこのサマリア人にとっては二度と決して起こらないであろうことを彼は知っていました。このサマリア人は神の好意を得ていませんでした。彼は単純にそれを求め、自由に与えられました。彼はそれを得られないことを知っていました；彼は追い出された者、サマリア人であることを知っていました。神の恵みを受けて、感謝と賛美は自然の応えでした。

この福音から私たちはたくさんのメッセージを頂きます。身体的には皮膚病を患っていないくても、罪という「精神的な皮膚病」を患っているかもしれないということに気づきましょう。イエスは罪という皮膚病の汚れから私たちが癒そうと望んでおられる救い主です。イエスは私たちの奥深い汚れに触れてくださるのですから、それを隠さないようにしましょう。重い皮膚病患者たちがイエスに大声で癒してくださるように叫んだように、私たちも不純や、不正、憎しみ、偏見などの精神的な皮膚病の罪から癒して頂くようにイエスにお願いしましょう。

私たちは、神と他者に感謝することを学ぶ必要があります。私たちは食前の感謝の祈りを捧げ、家族の祈りのために数分を分かち合うことで、愛して下さり与您てくださる神に感謝を表わすことができます。他者を赦すことで赦して下さる神に感謝を表わしましょう、私たちの家族や友人などまわりの人たちに神の愛や憐れみ、いつくしみを輝かせることで、愛する神への感謝を示しましょう。高齢や病気の両親の世話をすることで、私たちを育てた親たちの犠牲に感謝します。

私たちは聖なるエウカリストを最上の感謝の行為として捧げる必要があります。「エウカリスト」(Eucharist) というギリシャ語は、深く宗教的で全く霊的な「感謝を捧げる」という意味です。私たちが共にミサに与るとき、聖なるエウカリストの中で神の生命に与り精神的バッテリーを充電するために、神は素晴らしい贈りもの、ご自分の独り子を与えてくださることに感謝します。教師であり、導き手であり、奮発させてくださる方、聖霊を与えてくださることに感謝します。

(Sr. Paulina)

## 年間第30主日C (ルカ18:9-14)

今日の福音は心していなければならない二つのことをたとえを通して教えています。一つは自分を他人より優れた者、正しい者とうぬぼれて他人を見下さないこと、もう一つは自分が罪人であることをわきまえ、心からの痛悔と謙虚な心で神に近づくことです。

ファリサイ派の人の祈り：驕った心で自分を正しい者と確信して祈るファリサイ派の人の祈りは祈りではなく、神に感謝している様子を装って自分がいかに善良であるかを報告しているにすぎません。これは役に立たず無効です。彼は高慢で自分以外の人を軽蔑し、徴税人を罪人と見做しています。神は、彼には何も与えられませんでした。自分の罪深さを深く悟り謙虚に神の赦しを願った徴税人には願ったもの全てをお与えになりました。謙った心の祈りほど神の心を動かすものはありません。

徴税人の祈り：徴税人は会堂の後ろの方で、目を上げようともせず自分の罪を告白し神が憐れみによって赦してくださるよう願いました。“キリエ レイソン” – “主よ、罪人であるわたしをお憐れみください”。彼の祈りは短く、目的が明瞭です。砕かれた心で祈る徴税人の祈りは神に聴き入れられました。彼の持っていた唯一の徳は謙遜です。この徳が彼を真の痛悔へと導き、彼は神の憐れみを心から願うことができました。ローマ帝国の統治の下、仲間をだまして過重の税金を徴収していた徴税人は良心の呵責を感じていました。彼は、個人的にまた共同責任的に罪人でした。この状況が“主よ、罪人であるわたしをお憐れみください”と祈らせたのです。

祈りの生活を反省してみましょう。祈るときには自分の全てを無条件に神に明け渡し、何も持たない空の手を差し出し、出来る限りの謙虚な心で神を迎えましょう。

自分で自分を正当化することを避けましょう：自らを正しいと主張する人は神の恵みを受ける必要がなく、神の恵みを受け入れる場所を有していません。これは悲劇です。道徳的には問題なく生活しているかのように見えますが、自分を常に正しいと思っている人は、その生活の支えである神の恵みの必要を感じることなく、それを受ける用意が無いので、神は恵みを与えることができません。神の場がないのです。逆に、もしわたしたちが本当に謙遜であれば、神の恵み、憐れみ、平和を見出します。その生活には神の恵みの場がありそこで神は神にしかお出来にならない働き、奇跡を行ってくださるのです。絶え間ない神の憐れみと赦しがどんなに必要であるかをしっかり心に留め、日々の生活の焦点を完全に神にのみ向け、神との親しい交わりを大切に生きましょう。

(Sr. Paulina)



## 年間第31主日

(ルカ19：1-10)

今日は徴税人ザアカイの話が語られます。背の低い彼はイエスを見ようとしますが、人々の背が邪魔して見る事ができません。でもどうにかして見ようとしたザアカイ、木の上に登ってでも見ようとした、見たいと思ったザアカイ。その心に呼応する様に、イエスもザアカイを探し、声を掛けられます。「今日は、ぜひあなたの家に泊まりたい。」これにはとてもびっくりしたことでしょう。ユダヤ教徒から罪人と思われている徴税人、しかもその頭である自分のところに、イエスが泊まりたいと仰って下さるなんて・・・。

「ぜひあなたの家に泊まりたい。」と仰ったイエスに対して、ザアカイはどんな態度を取ったのでしょうか。どうしようかなと考え込んだのでしょうか？ 周囲の人目を気にしたのでしょうか？ 決してそんなことはありませんでした。ゆっくり考え込むのではなく、急いで降りてきて喜んで迎えます。イエスの呼び掛けに応えてお迎えしたのです。

イエスが来られたのは、失われた者を捜して救うため、全ての人の救いのためでした。自分が捜すよりも先に、イエスは捜して下さいます。今なお捜し続けておられます・・・。

ザアカイは、寛大に財産の半分を施す、騙し取っていたら四倍にして返すと言います。イエスと出会い、生き方がすっかり変えられ、新たな歩みを始めてゆきます。そこには喜んでイエスをお迎えした人の新しい姿があります。しかしながらこれとは対照的に、人々はイエスを批判し、ザアカイを「罪深い人」という言葉で批判します。目の前に、イエスに出会って、生き方が変えられた人がいるのに、神を賛美するのではなく・・・。

神と出会い、神の子イエスと出会うと人は変えられてゆきます。様々な出来事を通し、人々を通し、みことばを通し、イエスは私たちに語りかけ、出会おうとして下さいます。でも気をつけないと、そんなイエスの姿に気付くことなく、いつの間にか、人々の様にイエスを批判して、人々を批判している人になっているかも知れませんね。

どうか私たち一人一人イエスと出会うことができます様に。喜んでイエスをお迎えし、イエスによって変えられて、救いの訪れを自分のうちに深く味わいながら、イエスとの新たな歩みを始めることができます様に。

(Fr. 古川利雅)

先月号の続きになります。

友人がエンディングノートを書きとめていて、終末医療、延命治療のところで困惑し、お手上げ状態となって電話をかけてきたこと、あれやこれやと語り合っ  
て、とりあえず未完の収束としたことなど、また科学、技術の目まぐるしい進歩  
の時代にあって、いのちを思うことなどを先月号に記しました。

その友人から実はその日のうちに「次はお葬式のこと」と、迫伸の電話があっ  
たのです。

「あなたは生きること死ぬこと彼岸のことが、キリストというひとつに結ばれ  
ているから案ずることはないでしょうけど、わたしは希望する葬式は何かとあ  
らためて問われると、考えてしまう」「夫の死は突然だったので、夫の弟が取  
り仕切ってくれて葬式は曹洞宗でしたけれど、後になって本当は家は浄土真宗  
とわかったのよ。でも大問題にもならなかったのよ、法要は檀家にはなれませ  
んという約束の上で13回忌まで曹洞宗でして、もうそれで終わりにしたの」

「宗教といっても、あなたのようにすべてを懸けたりするのは別物よ。単なる  
セレモニーだけど、葬式にはお坊さんがいた方が気持ちとして安心するのよ。  
無宗教のとてもいいお葬式にも出たことあって、これはこれでいいと思ったけ  
れど、慣習というのかしら形としてお坊さんはおさまるのよね」

「あなたも知ってるように、わたしの中には苦しい時の神頼みもないのよ。夫が  
亡くなる時も、神も仏も思い浮かべることはなかった」。

そうだったのです。夫君は突然に倒れられ、2週間の昏睡状態の後に亡くな  
られたのですが、その間毎日のように私は彼女からの電話を受けました。

あの時はほんとうに怖かったねと、今でも時折思い出しますが、文字通り死に  
物狂いの必死でした。お葬式の日、初めて夫君の遺影を拝したとき、ああ  
あなた様でしたかと、心の底から懐かしさともいうような感情がこみ上げてき  
たほどに、私の内にも密なものが入っていたのです。

友人は出棺のとき、大勢の人の前でいやだいやだと柩にすがって泣き叫び、  
取り乱れました。友人を知る者たちにとって、それは彼女に限ってはある筈  
のない、目を疑う衝撃の光景でした。

しかし、そうなってしまったことは、或る偉大な変革を内面世界にもたらした  
と、後に彼女は言います。画期的な出来事だったと言います。

それは、生きることの根底となって今も彼女を支えているようです。



「逃げ場のない惨めさの終点だから、あそこへ行けばもう大丈夫」と、いつも言います。その後、長い年月をかけて夫君の死をわが身に許し、深々と和解していったのですが、ある面厳しい激しい道のりでもあったのです。

ひとしきりあれやこれやと言い合って後、「お葬式のセレモニーになぜお坊さんがおさまりがいいのか理由はないのよ。きっと長々とずっと慣れてきているからだと思う。身に馴染んでるの。そうしないと何だか野ざらしの気がするの」

「わたしの葬式は特に希望なんてない。息子たちに任せるけど何教だっていいのよ。でも、キリスト教や神道にはならないわね」

友人は日常の中で、私にごく普通に「悲しくて惨めでしょうけれどそれでいいのよ。自分が死ぬのよ。あなたの魂があなたの神さまをよろこばせたいのよ。魂の意志だよ。愛するってきっとそういうことだと思うよ」などとまるで司祭のようなことを言いますが、そうであるのに「あの世とか次の世とか、本当に関心がないの。あったらそれでいいし、なかったらそれでいい。困らないの」

そして御多分にもれず言います。「どの宗教もつまるところ同じで相対的なもので、天国も極楽もみんな一緒なんじゃないの」

私は困り果てます。彼女の言い分はよくわかるし、でも賛同しかねるし、だからといって並べ比べてこれこそだということでもないし、「神さまがいなかったら宗教って生まれなかったと思う」「個人的な思いは、一夫一婦制の結婚と同じで、永遠の契りなの。実際に私、洗礼を受けることは夫に不貞を働く気がして、気が転倒してしてしまって、混乱した」などと言いつつも、何という理解不明の言い分かと自分でも思わないわけにはいきません。

友人はおよそ小説など読まない人なので、勧めるわけにはいかないのですが、私は遠藤周作の「深い河」を想いました。

生活と人生は違うと悟る主人公を想い、人間を想い、死を想い、彼岸を想い、悲しいまでの罪びとの身で、悲しいまでのキリストの死と復活を想いました。

これまでも数回通読しているのですが、今日また読んでみたくなりました。

# いのちの言葉 10月

隣人から受けた不正を赦せ。  
そうすれば、願い求めるとき、  
お前の罪は赦される。

(シラ 28・2)

私たちは暴力の絶えない社会で生きており、「赦す」ことは困難な課題です。家庭を崩壊させた人や大変な犯罪を犯した人、あるいは、私のキャリアを妨害したり、信頼を裏切ったりして私を傷つけた人を、どうやって「赦す」ことができるでしょうか？

復讐したい衝動は、本能的なものでしょう。しかし悪をもって悪に返せば、憎しみの連鎖は終わらず、攻撃的な行動は社会を脅かすものとなるでしょう。人との関わりを断ち、残るものは恨みだけとなれば、人生は苦々しいものとなり、人間関係も損なわれてしまいます。

私たちの人生で起こりうる、こうした穏やかでない状況に際し、神のみ言葉は、最も難しく、勇気のいる解決策を、力強く要求しています。それは「赦す」ことです。

今月のいのちの言葉は、古代イスラエルの民の聖典であるシラ書からとられています。そこでは、他者を赦さない人が、神に赦しを求めることの無意味さが語られています。別のユダヤ教の伝統的聖典にも、「神から罪を赦されるのは、誰か？ 他者を赦す人である」<sup>1</sup>と記されています。イエスご自身も同様に、御父への祈りの中で次のように教えられました。「私たちの負い目を赦してください、私たちも自分に負い目のある人を赦します」<sup>2</sup>と。

私たち自身も間違いを犯しますし、そのたびに赦してもらいたいと切に願うものです。ごめんなさい、どうかやり直す機会を下さい、私をもう一度信じて下さいと、頭を下げて願うことでしょう。だとすれば、他の人も皆、同じではないでしょうか？ 私たちも、自分と同じように隣人を愛するべきではないでしょうか？

神のみ言葉をよりよく理解するヒントを与えてくれるキアラ・ルービックですが、「赦し」についても、次のようなコメントを残しています。

「赦しとは、忘れ去って現実から目をそらすことではありません。自分よりも強い相手を恐れ、受けた過ちがなかったことにするのもありません。重大なことを軽く見なしたり、悪いことを善いものとするのでもなく、無関心になるのとも違います。

赦しは、明確な自分の意志で自由に行う行為です。神が私たちの欠点にも関わらず、私たち罪人を受け入れて下さるように、たとえ兄弟姉妹が嫌なことをしても、相手をありのまま受け入れることです。ひどい仕打ちに対して同様にやり返さず、むしろ聖パウロの手紙にあるように『悪に負けることなく、善をもって悪に勝つ』<sup>3</sup>ことです。

赦すとは、あなたにひどいことをした相手が、あなたと新しい関係を築くために、扉を開いてあげることであります。相手もあなたも、もう一度やり直して、悪が最終的に勝利しない未来に向かうことです。」

このいのちの言葉は、売り言葉に買い言葉で応えたり、やり返したくなったりする誘惑に耐えるよう助けてくれるでしょう。また「敵」とみなしていた人を新しい目で見えて、兄弟姉妹として受け入れるよう助けてくれます。相手が悪い人でも、誰かから愛され、変えてもらうことを必要としているでしょう。こうして私たちは相手に「愛の復讐」をすることになります。

キアラのコメントは続きます。

『『難しい』と皆さんは言うかも知れません。それも理解できます。でもこれこそがキリスト教の素晴らしさです。十字架につけられ、自分を死に至らせた人々を赦すよう御父に祈られたキリスト、私たちはこの神に従う者なのです。がんばりましょう。赦すことで、新しい人生の歩みがスタートします。私たちは、今まで味わったことのないような平和とあふれる喜びを味わうことでしょう。』<sup>4</sup>

ファビオ・チャルディ神父

<sup>1</sup>バピロニア・タルムード メギッラー 28a 参照

<sup>2</sup>マタイ 6・21

<sup>3</sup>ローマ 12・21

<sup>4</sup>『Costruire sulla roccia (岩の上に建てる)』p. 46-58 チッタ・ノーバ社 (ローマ) 1983年

\*2016年度の「いのちの言葉」は、フォコラーレ本部のファビオ・チャルディ神父によります。

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

#### いのちの言葉の集い

関東 10月9日(日) 13:30 ~ カトリック藤沢教会(神奈川) 204号室  
(週日に吉祥寺・鷺沼・戸塚・厚木・千葉・浦和・鹿沼でも)

中部 10月9日(日) 14:00 ~ 瀬戸市みずの坂サポートハウス「ゆうや」

近畿 10月9日(日) 13:30 ~ 大阪カトリック香里教会

長崎 10月23日(日) 14:00 ~ 浦上教会要理教室「みことばの分かち合い」

▶詳細は各フォコラーレセンターまで。

連絡先: フォコラーレ東京 03-3707-4018/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: [tokyofocfem@ybb.ne.jp](mailto:tokyofocfem@ybb.ne.jp)

ホームページ: [conil157ch1.wix.com/focolare-jp](http://conil157ch1.wix.com/focolare-jp)

# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。



ORDEN  
CARMELITAS DESCALZOS  
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

## << Communications (時事通信) >>

2016年8月23日

### 福者三位一体のエリザベトの列聖式プログラム

- ・10月15日土曜日20時30分に、荘厳列聖式の準備のために、コルソ・ディタリアのアピラの聖テレジア・バジリカで、徹夜祭の祈りが行われます。
- ・10月16日日曜日10時15分に、ヴァチカンのサン・ピエトロ広場で、荘厳ミサと列聖式が行われます。
- ・10月17日月曜日10時00分に、ヴァチカン市国郊外の聖パウロ・バジリカ（ピアッツァーレ サン・パオロ、1, 00146）で、列聖感謝ミサが行われます。
- ・列聖式参加チケットは無料、申込先のEメールアドレス、[ocdpost@gmail.com](mailto:ocdpost@gmail.com)

2016年9月6日

### 東チモールでのミッション

東チモールにおける跣足カルメル修道会の創立は、その第一歩を踏み出しました。今年1月6日に最初の共同体がチモール人のノエ・マーティン神父とスペイン人のアントニオ・ゴンザレス神父によりディリで始められました。この創立は、ポルトガル管区のイニシアティヴでイベリア管区とナバラ管区の支援を得て実現しました。この国でのミッションとして、私たちにもっともふさわしいものは、霊性の促進と養成の促進であるとされました。

霊性の分野での仕事は、創立から6ヶ月間、その道を創りはじめています。アントニオ・ゴンザレス神父は、東チモールのディリ、パウカウ、マリアナの三つの教区の司祭達の黙想会を指導しました。ノエ・マーティン神父は、8月3日から11日までフランシスコ会の修練者達に初誓願に向けた養成を行いました。これらの双方でのトピックスは、「神のいつくしみ」についてでした。九月初旬から、この二人のカルメル会司祭は、国内の修道会とディリ教区の依頼による他の活動にも着手します。

さらに、私たちは若者の召命識別にも取りかかっています。このようにして、私たちは彼らと共に養成、識別、祈りに関わっています

# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>  
の記事を紹介します。

<< **Communications** (時事通信) >>

08//09//2016

## Discalced Carmelite Bishops

At the beginning of September, the traditional course for bishops consecrated and/or elected during last year was celebrated at Rome. Among those taking part in the course were Mons. George Tambala and Mons. Zdenko Križić, Discalced Carmelite bishops, whom we were able to greet as they passed through Rome.

For his part, Mons. Oswaldo Escobar, Bishop of Chalatenango since the first of October, forwarded on to us his episcopal coat of arms, which contains the following elements: a castle which represents his ties to the Teresian Carmel, since it evokes the supreme work of Mother Teresa; the sun, recalling the patron of the diocese, St John Baptist, who was called to point out the sun who was born from on high (cf. Lk 1:78); the dove of peace, in a region so wounded by civil war, is a symbol which is also in the style of the typical artisan art of Chalatenango; finally, there is the shield of the Order.

His episcopal motto is: “Depths of mercy”, which he took on when he was ordained a priest and which, twenty years after, became the plan for his episcopal ministry.

Finally, we inform you that on 4th July the Holy Father, Pope Francis, accepted the resignation of Mons. Amancio Escapa, ocd, the auxiliary Bishop of Santo Domingo, for reasons of age, and also on 2nd August the resignation of Mons. Dadah from the pastoral government of the Apostolic Vicariate of Beirut (Lebanon).

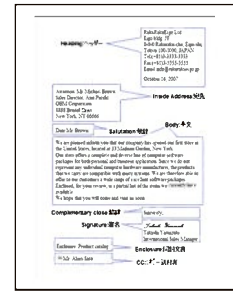




# 糸巻き棒からペンへ(13)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD



ロペ・デ・ヴェガは、その作品『コルドバの騎士団長』の中で次のように書いた時、このことを肯定しています。「いかなる人も自分一人で名誉を獲得することはできない。人は他の人から名誉を受け取るのである。人が人目につき、すぐれた長所を持っていることは、名誉あることではない。それゆえ、名誉が他者の中にあり、彼の中にあることは、確かである」と。そしてテレジアもこのことを、次のように言いながら認めています。「私には、名誉とお金はほとんどいつも共に歩くように思われます。なぜなら、驚くべきことですが、貧しければ、この世では決して名誉は与えられないからです。それどころか、本当は名誉に値するにもかかわらず、みなは彼を尊敬しないのです」(『完徳の道』エスコリアル版 2, 5-6)。したがって、名誉とは、他の人が私たちについて考えていることであり、私たちに対する敬意なのです。

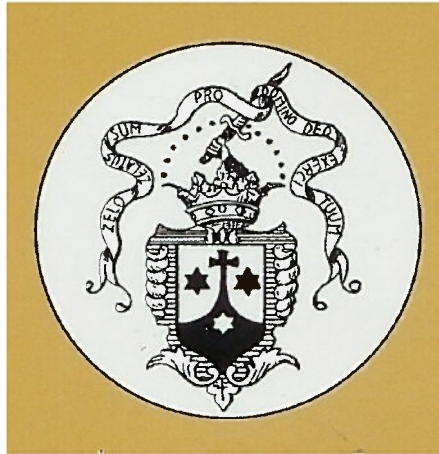
名誉は、一連の肩書や各社会階層の特有の振る舞いの中に表現されました。社会的な慣例を尊重しないならば、それは、恥、不名誉と見なされ、復讐がなされねばなりません。名誉のためなら人を殺したり、餓死させることができました(その時代の無頼漢文学に次々に登場するすべての人物の中に、そのような考えが見受けられます。兵隊や郷土や破戒僧たちは、一枚だけ衣服を持ち、床に眠り、食べ物を持たず旅をしていましたが、女中や従者から奪い取ることはしませんでした。)

名誉は、社会的認証に役立ちますが、また全くの奴隷状態にも追い込みました。衣服や食物や振る舞いや尊称などはすべて、テレジアが描写しているように、固有の身分に一致していなければなりません。「この世の中は、体面や流行や礼儀作法を学ぶために、人生はもっと長くならなければならないほどです。…ある人々の肩書に不注意であったとすると、彼らは、それを冗談とは取らず、本気で侮辱と取りましますので、不注意であったならば、あなたの意向について弁解しなければなりません。…手紙の書きだしの肩書について学ぶには、どのようになすべきかを教える教師が必要です。紙の一方はこれだけ、他方はこれだけあけなければいけない、また magnifico の肩書を持たない人には、ilustre の肩書をつけねばならない等々。…主はこの世から私を救い出すというお恵みをくださいました。このようなつまらないことに多くの労力を費やしている人々は、いくらでも気のすむようになさるのが良いでしょう」(『自叙伝』 37・9-12)。

(続く)



# カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）

## 上野毛霊性センター 2016年4月～2017年3月

### 黙想企画 \*\*上野毛聖テレジア修道院（黙想）\*\*

#### 1. 祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時  
2016年12月24日(土)～25日(日)朝食《講話なし、夕食なし》

#### 2. 日帰り一日黙想会 13時30分～16時 福田正範神父

[聖人たちを支えた神のことば]

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことである”と聖ヒエロニモは言いました。第二バチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト信者は、しばしば聖書を読んでキリストを知る素晴らしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように……。

2016年

10/28 (金)、11/11 (金)、11/24 (木)

12/9 (金)、12/22 (木)

2017年

1/12 (木)、1/27 (金)、2/9 (木)、2/24 (金)、3/9 (金)

3/24 (金)

\*申し込みは、3か月前より受付致します。

#### 3. 奉献生活者のための黙想会

2016年

10月13日(木) 18時～10月22日(土) 朝 福田正範神父

12月27日(火) 18時～2017年1月5日(木) 朝 福田正範神父

4. 青年黙想会(男女)

2016年

11月26日(土) 16時～27日(日) 16時

5. 召命黙想会(男女)

2016年

10月8日(土) 16時～10日(月) 16時

6. 聖週間前の黙想会 福田正範神父

2017年

3月 18日(土) 18時夕食～20日(月) 16時

7. 特別黙想会 Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

2016年

10月28日(金) 20時～30日(日) 16時



電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願い致します。

間違いを避けるためなるべくFAX・はがき・Eメール等でお願ひできますならば幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel : (03) 5706-7355 Fax : (03) 3704-1789

Eメール : [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>

# \*\*\*\*\*日帰り黙想会\*\*\*\*\*

## ☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。  
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25)信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように…。

**場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)**

**指導：福田正範神父**

\*企画の一日黙想会は、都合により、半日の日帰り黙想会に変更になりました。

午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時~ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

**日時： 2016年 10月28日(金) 午後1時30分~午後4時**

11月11日(金) ”

11月24日(木) ”

12月 9日(金) ”



お問合せ・お申込み+

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789 Eメール:

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

## 特別黙想会 《わたしは神をみたい》

2016年10月28日(金) 20:00 ~ 30日(日) 15:00

# 諸聖人たちとともに



神のいつくしみのまなざしのもとに  
しばらく静かなひとときを 過ごしてみませんか



たとえ何一つ主にささげることが できないように感じられても、  
何も無いということをおさげしましょう。

聖テレーズ



わたしたちの神を  
知らねばなりません。  
わたしたちの心を開き  
神のうちの  
おろかなまでの愛を  
信じなければなりません。

福者マリー・エウジェヌヌ



わたしの一生に 太陽が  
さんさんと注いでいたのは  
「心の深みに住まわれる神」と  
親しくしていたからから  
でした。

三位一体の聖エリザベット

- 指 導： 伊従 信子 (ノートルダム・ド・ヴィ会員)
- 持参品： 新約聖書、『いのりの道をゆく』聖母文庫、聖母の騎士
- 参加費： ￥12000
- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想の家)  
158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25 Tel 03-5706-7355
- お申込み： F A X : 03-3704-1764 Eメール：[mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)  
または、ハガキにてお申込み下さい。



# カルメル召命黙想会

## 赦しの恵み



- 日時 : 10月8日(土) 16時 ~ 10日(月) 16時  
場所 : カルメル会上野毛 聖テレジア修道院(黙想)  
対象 : 召命を考えている、独身の青年男女(40歳まで)  
定員 : 20名  
費用 : 一般 10,000円 学生 7,000円  
締切 : 10月1日(土) <必着>  
指導 : 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)  
電話: 03(5706)7355  
FAX: 03(3704)1789  
E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp





# カルメル青年黙想会

## 主はともにおられる

—神との親しさを求めて—



日時： 11月26日(土) 16時 ~ 27日(日) 16時

場所： カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

対象： 高校生以上の青年男女(35歳まで)

定員： 20名

費用： 一般 10,000円 学生 7,000円

締切： 11月19日(土)

指導： 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mail の何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

電話： 03(5706)7355

FAX： 03(3704)1789

E-mail： mokusou@carmel-monastery.jp

# 2016年 黙想会案内

(宇治カルメル会)

## 【聖書深読黙想会】

・ 1日 (午前10時～午後4時) 10月22日 (土) 中川博道神父

## 【水曜黙想】 (午前10時～午後4時)

10月19日 (水) 神に愛されている喜び シスター-ロサ

11月16日 (水) いつくしみの御母、聖マリア 松田浩一神父

## 【キリスト教霊的同伴】 (金曜日：夕食なし) 午後8時～午後3時まで

10月21日～22日 (土) 松田浩一神父

11月11日～12日 (土) 松田浩一神父

12月2日～3日 (土) 松田浩一神父

## 【待降節の黙想】

12月10日 (土)～11日 (日) 夜露のように静かに訪れる神を待つ  
(午後5時～午後4時) 中川博通神父

## 【聖テレーズの黙想】

9月30日 (金)～10月1日 (土) 伊従 師  
(午後5時～午後4時)

**【一般のためのカルメルの霊性セミナー】**

10月14日（金）～15日（土）（午前10時～午後4時）

イエスの聖テレサの霊性

松田浩一神父

12月13日（火）～14日（水）（午後5時～午後4時）

十字架の聖ヨハネの霊性（2）

松田浩一神父

**【奉献生活者の黙想】**

12月27日（火）（午後5時）～1月5日（木）（午前9時） 松田浩一神父

**【English Retreat】**

11月26日（土）（10am to 4pm）

Maranatha-Come Lord Jesus

シスター・ロサ

祭日のミサに参加するために

**【クリスマス】**

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日（土）～12月25日（日）

{講話なし、各食事つき}

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会個人黙想も歓迎いたします—  
☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

# カルメル会シスター 三位一体のエリザベト 10月16日（日）列聖おめでとう!!

## 列聖記念ミサへのお誘い

場所 : 男子跣足カルメル修道会宇治修道院（京都）

日時 : 11月5日（土）AM10:00から

ミサ後、三位一体のエリザベトの列聖記念  
小話を致します。

参加者 : 三位一体のエリザベトに関心のある人

スケジュール

AM10:00～10:45 ミサ

AM11:00～11:40 小講話

費用 : 自由献金

司式・講話 : 松田浩一 神父（カルメル会士）



男子跣足カルメル修道会 宇治修道院へのお問い合わせ

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

男子跣足カルメル修道会宇治修道院

TEL 0774-32-7456

FAX 0774-32-7457

 [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

一般のためのカルメル靈性入門<京都・宇治>

イエスの聖テレサ（テレジア）教会博士  
の『自叙伝』の導入

日時 : 10月14日(金) PM5:00~10月15日(土) PM4:00まで

16世紀のスペインでカルメル修道会に入会して、祈りと神体験により完徳の道に大きな進歩をとげた聖女。その後、神の導きによりカルメル修道会の改革に着手し、多くの艱難を受けながらも16個の女子跣足カルメル修道院と2個の男子跣足カルメル修道院を創立する。また、彼女は多くの靈的著作を残し、カトリック教会の遺産となっている。1970年に教皇パウロ六世によりカトリック教会の教会博士に加えられる。

**今回は、神が彼女に与えられたカリスマのオリジナルとなる『自叙伝』を取り上げてみる。関心のある方は、ご参加ください。**

参加者：カルメル会の靈性に興味のある人  
持参：イエズスの聖テレジア著『自叙伝』サンパウロ社  
または、  
アピラの聖テレサ『神のあわれみの人生』上下聖母文庫  
筆記用具、宿泊に必要な物。  
費用：7,000円（日帰り 3,500円）  
指導：松田浩一 神父（カルメル会士）  
\*宿泊できない方は、10月15日(土)のみ参加もできます。



<場所> 男子跣足カルメル修道会 宇治修道院  
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
男子跣足カルメル修道会宇治修道院  
TEL 0774-32-7456  
FAX 0774-32-7457  
 [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)



# 『社会人のための霊的同伴』

## — 日常のキリスト教霊性を求めて —

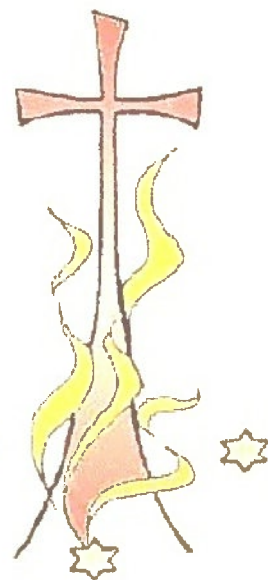
日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

### 【内容】

- この企画は、キリストと各人との人格的交わりを深めるものでありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにした祈りのひと時です。

### 【参加者人数】 6名

【開催日】 2016年 2月19日(金)～20日(土) 終了  
3月18日(金)～19日(土) 終了  
6月 3日(金)～ 4日(土) 終了  
7月 8日(金)～ 9日(土) 終了  
9月 2日(金)～ 3日(土) 終了  
10月21日(金)～22日(土)  
11月11日(金)～12日(土)  
12月 2日(金)～ 3日(土)  
(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)



【参加費】 各回 6,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12  
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)  
Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457  
E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)



# 宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

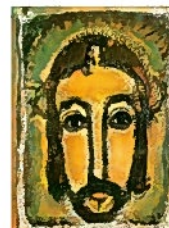
建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしくお願いたします。

三井住友銀行  
上前津（カミマエヅ）支店  
普通口座：7205805  
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行  
記号：10040  
口座番号：56845391  
名義：男子跣足カルメル修道会

男子洗足カルメル修道会本部  
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17  
Tel：052-571-1558 Fax：052-681-6445

# 《 名古屋一日静修 》



神のいつくしみに学ぶ

—特別聖年を迎えて—

1. 日時： 11月23日(水)： 「神のいつくしみの生きた証人となれ…  
(福者フランシスコ・パラウと他)」  
Sr. ポーリン・フェルナンデス (カルメル宣教修道女会)  
場所：カトリック日比野教会 信徒会館  
(地下鉄・名城線日比野駅下車 徒歩約5分)
2. 参加費：1000円
3. 持ち物：聖書、ロザリオ、筆記用具、お弁当
4. プログラム  
10:00 導入の祈り (聖堂)  
10:20 第一講話 (信徒会館)  
11:20 念祷 ① 赦しの秘跡または面接  
12:00 昼食 (信徒会館)  
12:30 念祷 ② 赦しの秘跡または面接  
13:00 第二講話  
14:00 念祷 ③  
14:30 ミサ (聖堂)  
15:30 茶話会 (信徒会館)  
16:00 終了の祈り
5. 申し込み：下記いずれかの方法でお申し込み下さい。  
FAX/0568 - 62 - 5167  
mail/seisyuu\_2015@yahoo.co.jp  
ハガキ/〒484-0076 犬山市橋爪一丁田1-26  
「名古屋一日静修」係

## 《一日静修特別黙想会》

日時：2016年12月3日(土)午後5時受付～4日(日)午後4時  
場所：宇治聖テレジア修道院(黙想)  
テーマ：「神のいつくしみに気づく」  
指導司祭：九里 彰神父  
\* どなたでも参加できます。  
申し込み：同上の「名古屋一日静修」係へ。  
申し込み締切 11月26日(土)

(カルメル修道会主催 名古屋カルメル在世会協賛)

## 霊性センター

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

## 土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語り、またご聖体のイエス様と  
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

## 聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

## 通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

### 1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21 号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話 03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ  
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

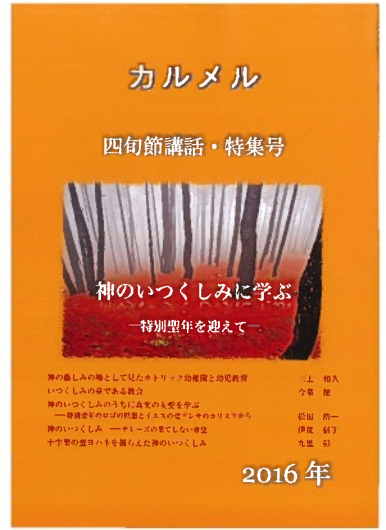
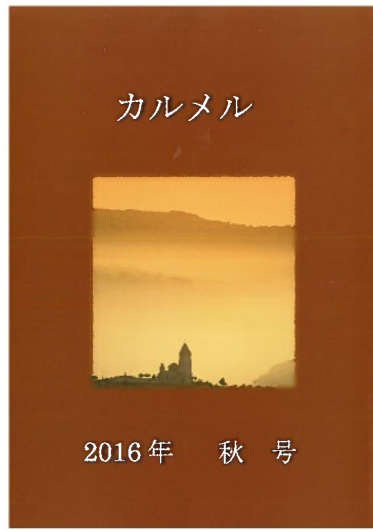
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール [carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp](mailto:carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp)

「カルメル」  
今日の霊性・秋号  
今日の霊性・特集号



2016 秋 No.362 2016 特集号

神が慈しまれた道 (11)	ぼくのパパはなんでピエロなの？	イエスの聖テレサと男子跣足カルメル修道会についての一考察 (5)	風に吹かれて (9) ——為政清明	神のいつくしみ深い愛とテレーズ (2) ——いつくしみの愛を歌う産毛の小鳥	「いつくしみの特別聖年」の意義について (3)	「いつくしみの特別聖年」を迎えて (3)	「いつくしみの秘義を生きる」 (3) ——「使徒のなかの使徒」、マクダラのマリア	十字架の殉教ヨハネを語りかえた神のいつくしみ (9)	神のいつくしみ (38) ——特別聖年のエゴの思想とイエスの聖テレサのオカリスママから	神のいつくしみの奥として見たカトリック幼稚園と幼児教育 (2)	神のいつくしみの奥として見たカトリック幼稚園と幼児教育 (2)
奥村一郎	森みさ	松田浩一	原造	伊従信子	田畑邦治	九里彰	須沢かおり	九里彰	伊従信子	今原健	三上和久
46	40	32	29	23	9	3	16	50	38	12	2

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。定価は、一冊460円です。  
(サンパウロ、ドンボスコ書店、イグナチオ教会案内所、上野毛教会の信徒ホール本コーナー、カルメル会上野毛修道院黙想の家等)

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円 (+送料140円)】を下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号【460円×5=2,300円】+送料【700円】計3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会  
お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL (03) 5706-8356



福者マリー・エウジェンヌ神父に導かれて

# 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従信子 編・訳

Selon Bienheureux  
LE PÈRE MARIE-EUGÈNE  
DE L'ENFANT JÉSUS

聖母文庫

**11月下旬発売予定!**

マリー・エウジェンヌ神父が十字架の聖ヨハネを生き、体験し、確認した教えなのです。ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの教えは現代の人々にも十分適応されます。また、神の命を伝え、実践的手段を示して聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

## 神と親しく生きる いのりの道

幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 246

定価540円(税込) 207頁

## わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー・エウジェンヌ神父とともに

伊従信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 268

定価648円(税込) 281頁

# 祝 列福を祝って…!!

福者マリー・エウジェンヌ神父  
2016年11月19日

- ◆11月19日(土) 列福式: フランス・アヴィニオンにて
- ◆12月10日(土) 列福記念ミサ(予定): 東京上野毛教会にて  
-カルメル会・ノートルダム・ド・ヴィ共催-

## 福者マリー・エウジェンヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195 【聖母文庫】

定価540円(税込)



ご注文  
承り中

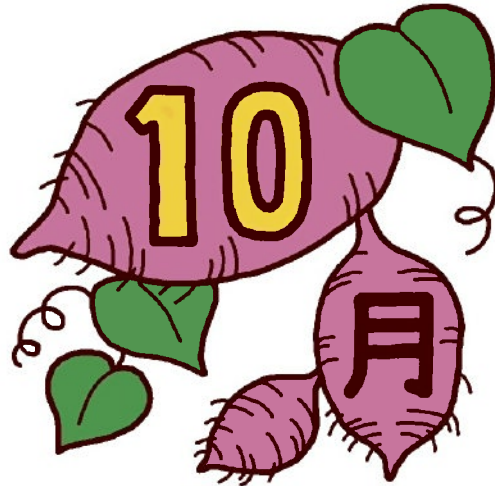


ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1  
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



# 諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター  
真命山 霊性交流センター  
リーゼンフーバー神父キリスト教講座  
ノートルダム・ド・ヴィ  
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院  
サダナ瞑想  
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。



## 諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

### 心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり・内観瞑想センター」藤原神父  
FAX 072・802・5026 Eメール [fujinao1944@nifty.com](mailto:fujinao1944@nifty.com)  
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

#### 2016年予定

N1	02/26 (金) -03/03 (木)	滋賀唐崎・ノートルダム
N2	05/07 (土) -05/13 (金)	滋賀唐崎・ノートルダム
K1	06/13 (月) -06/19 (日)	東京・小金井・聖霊会
K2	10/01 (土) -10/07 (金)	東京・小金井・聖霊会
N3	10/20 (木) -10/26 (水)	滋賀唐崎・ノートルダム
K3	12/05 (月) -12/11 (日)	東京・小金井・聖霊会

#### 2017年予定

N1	05/07 (日) -05/13 (土)	滋賀唐崎・ノートルダム
N2	10/10 (火) -10/16 (月)	滋賀唐崎・ノートルダム

年間のテーマ

イエスとの出会い  
その喜びを味わう

(レクティオ ディヴィナ)



2016年度行事のご案内

祈りの集い(10時~15:00時)

1月14日	イエスの誕生 (ルカ 2:1-14)	9月08日	ベトザタの病人 (ヨハネ 5:1-18)
2月11日	アンデレ (ヨハネ 1:35-43)	10月13日	マグダラのマリア (ヨハネ 20:11-16)
3月10日	ニコデモ (ヨハネ 3:1-8)	11月10日	フィリポ (ヨハネ 14:7-14)
4月14日	トマス (ヨハネ 20:19-28)	12月08日	ペトロ (ヨハネ 21:15-19)
5月12日	イエスの愛する弟子 (ヨハネ 21:1-7)		
6月09日	ザアカイ (ルカ 19:1-9)		
7月14日	サマリアの女 (ヨハネ 4:6-30)		
8月	休み		

指導者: フランコ神父

☎ 個人またはグループでの黙想会  
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター  
865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7  
☎ 0968.85.3100  
e-mail: shinmeizan@gmail.com  
www.shinmeizan.com

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。  
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分  
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール  
キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー 下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、  
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。  
キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2016年度:倫理と霊性の基礎づけⅡ近代・現代  
冬学期:10/1, 10/8, 10/15, 10/22, 10/29, 11/5  
11/12, 11/26, 12/3, 12/17

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」 毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月9日、12月27日は休み。  
8月23日は、上智大学内クルトゥルハイム2F聖堂。  
・「お昼の黙想」 毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂  
どなたでも。但し祝日、8月2日、11月1日は休み。  
・「水曜日ミサ後の黙想」 18時～18時30分 上智大学内クルトゥルハイム1階右、テレジア小聖堂。  
どなたでも。但し祝日、8月全体、11月2日、12月28日は休み。

・「黙想会」

6月18日(土)10時～19日(日)14時(上石神井)、11月19日(土)～20日(日)(上石神井)、2017年2月18日(土)～19日(日)(上石神井)、1泊2日、7,000円位。申込の締切りは、初日の8日前。  
[関西] 9月24日(土)13時30分～25日(日)15時(宝塚黙想の家)。Tel.0797-84-7863 (Sr.田中)。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。講話、黙想、ミサがあります。  
2016年  
10月1日、11月12日、12月3日  
2017年  
1月14日、2月25日、3月11日

・ロザリオの祈り(上記同日のミサに続いて)16時10分～16時50分

●坐禅会

・月曜日、木曜日 17時45分～20時10分  
上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。3回坐り、間に講話。(祝日、5月2日、8月全体、10月31日、12月26、29日は休み)

●坐禅接心

10月30日(日) 20時20分～11月3日(木) 8時30分  
秋川神冥窟。1泊 2,400円(+暖房費)程度。  
事前申込み要。

[関西]

宝塚黙想の家。事前の申込み要。  
Tel.0797-84-7863. (Sr.田中)

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室。  
10月15日(土)、2017年1月29日(日)。

## リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座 2016-17年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

- 10/7 洗礼と堅信— イエスに結ばれて生きる  
10/14 教会の成立と意味— イエスを中心に集う [イエス]  
10/21 人間としてのイエス— 新しい人間像の  
基礎づけ  
10/28 御子としてのイエス— 神との関係  
11/4 父と子と聖霊— 神の生命に与る  
11/11 信仰の決断— 支えられて生きる  
11/18 ミサ祭儀— 神への奉仕と生活の糧  
11/19-20 ●黙想会(上石神井)  
11/25 自己実現と神の意志— 生き方の規範  
12/2 人間の弱さ— 罪とは何か  
12/9 恵みとゆるし— 神の憐みを受ける  
12/10 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17:30  
パーティ、岐部ホール4階404,要申込み)  
12/16 愛の心— キリスト教の本質  
12/23 ◆クリスマスミサ(14時、上智大学内ク  
ルトウルハイム2階聖堂、定員80人)  
12/25 ●クリスマス黙想(18時50分-20時10  
分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂、予定)  
1/6 隣人愛— 他人の内にイエスに出会う  
1/13 希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む  
1/20 霊の動き— 福音による生き方  
1/27 秘跡と教会生活— 毎日を支える信仰  
2/3 神の言葉— 神との日常的な対話と黙想  
の仕方  
2/10 結婚と独身— 愛の道  
2/17 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている  
2/18-19●黙想会(上石神井)  
2/24 仕事という人間の課題— 社会と教会に寄  
与して働く  
3/3 人間の苦悩— 悪とは何のためか  
3/10 死— その受け入れと克服  
3/17 人生の完成— 神の内に生きる

キリスト教理解講座 2015年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

- 10/4 受難による救い — イエスの救済的役割  
10/18 死からの命 — 復活の認識・経験・理解  
11/1 ○休み  
11/15 キリストはだれか — キリスト理解の発展  
11/19-20 ●黙想会(上石神井)  
11/29 御子の受肉 — 神の子と人の子

[聖霊]

- 12/6 神の内的現存 — 人間における聖霊の働き  
12/10 ◆クリスマス・パーティ(16時ミサ、17時30分  
パーティ、岐部ホール4階404,要申込み)  
12/20 三位一体の神 — 救いの構造から神内  
の存在へ  
12/23 ◆クリスマスミサ(14時、クルトウルハイム2  
階聖堂、定員80人)  
12/25 ◆クリスマス黙想(18時50分-20時10  
分、聖イグナチオ教会マリア中聖堂)

[教会]

- 1/17 信仰者の共同体 — 教会の本質  
1/31 救いのしるしと実現 — 秘跡の意味  
2/18-19 ●黙想会(上石神井)  
2/21 「聖徒の交わり」 — 世界の只中のキリ  
スト

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056



ノートルダム・ド・ヴィ

## 講話と祈りの集い

\*上石神井\*

10月22日（土）午後2時～午後5時30分

担当：片山はるひ

講話・祈り・質問・分かち合い

参加費 200円

\*四ツ谷\* Week End Emao

上智大学 2号館1階 カトリックセンター

11月12日（土）午後2時～午後5時30分

担当 片山はるひ

講話・祈り・質問・分かち合い

参加費 無料

上石神井・四ツ谷の集いとも、  
テキスト『神と親しく生きるいのりの道  
幼きイエスのマリー・エウジェヌ師とともに』  
（聖母文庫 本体500円＋税）を用いて、  
講話を致します。詳細は下記連絡先まで  
お尋ねください。

※10月より伊従担当の集いはしばらくお休みです。  
代わりに片山が担当いたします。

お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

『片山はるひ宛』でお願います。

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

## サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・・開始日の8日前で締切ります

コース	日時	指導者	開催場所	申込み
入門A	10/16(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※ Tel&Fax 03-5918-9870
リピーター の会	11/3(木)12:00- 11/5(土)16:30	Fr植栗	浜松(旧)聖ベルナルド 修道院(浜松市北区)	若山美知子※
入門B	11/27(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
フォロー アップ	12/4(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
入門C	2017年 1/15(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
サダナ I	2/9(木) 9:30- 2/11(日)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	若山美知子※
フォロー アップ	2/26(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	若山美知子※
サダナ II	3/16(木) 9:30- 3/20(日)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

### ◆サダナ I (入門A. B. C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

### ◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナ I を終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



## ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1  
Tel： 077-579-7580  
Fax： 077-579-3804  
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。  
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2016年 5月 6日(金) ～ 5月 14日(土)
- ② 8月 14日(日) ～ 8月 22日(月)
- ③ 10月 19日(水) ～ 10月 27日(木)
- ④ 12月 27日(火) ～ 2017年 1月 4日(水)

B. 祈りの体験：週末3日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2016年 2月 5日(金) ～ 2月 7日(日)
- ② 2月 26日(金) ～ 2月 28日(日)
- ③ 3月 18日(金) ～ 3月 20日(日)
- ④ 6月 17日(金) ～ 6月 19日(日)
- ⑤ 7月 22日(金) ～ 7月 24日(日)
- ⑥ 9月 16日(金) ～ 9月 18日(日)
- ⑦ 11月 18日(金) ～ 11月 20日(日)

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2016年 5月 30日(月) ～ 6月 7日(火) 中川博道 師（カメル会）

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて  
郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。  
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。（但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。）

# 神のいつくしみを生きる

2016年度 青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	5月21日(土)～22日(日)	闇と光	山内十束師(ご受難会)
2	7月9日(土)～10日(日)	冬と春	山内十束師(ご受難会)
3	11月12日(土)～13日(日)	絶望と希望	山内十束師(ご受難会)
4	2月18日(土)～19日(日)	罪と恵み	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com

# 神のいつくしみを生きる

—絶望と希望—

2016年度 第3回 青年黙想会

日時： 11月12日 (土) 15:00 ～

13日 (日) 15:30 まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

締切： 2016年11月6日 (日) まで

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@mbe.nifty.com



# 祈り：講話と実践

## 沈黙の内に神を求めて —観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室 14:00～16:00

### 【2016年予定】

- 3月17日(木)『霊の賛歌』第1回目：導入の講話（緒言と詩） 終了
- 5月26日(木)『霊の賛歌』第2回目：はしがき・概要・注解 終了
- 7月21日(木)『霊の賛歌』第3回目：第一の歌（2～12） 終了
- 9月22日(木)『霊の賛歌』第4回目：第一の歌（13～22） 終了
- 11月17日(木)『霊の賛歌』第5回目：第二の歌
- 12月15日(木)『霊の賛歌』第5回目：第三の歌

\*参加費無料（献金歓迎）

\*問い合わせ先：042-473-6287 篠原



九里彰神父（カルメル会日本管区長）

### <<特別黙想会>>

日時：2016年12月17日(土) 4時半受付～18日(日) 午後4時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

テーマ：「神のいつくしみに気づく」

指導司祭：九里彰神父

申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

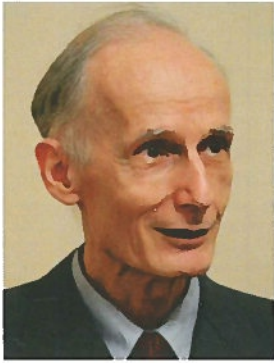
〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。





# クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価(本体+税)
第1巻	<b>I 超越体験 一宗教論</b> 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	<b>II 真理と神秘 一聖書の黙想</b> 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	<b>III 信仰と幸い 一キリスト教の本質</b> 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	<b>IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論</b> 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓けて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	<b>V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践</b> 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

## ●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学の人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知泉書館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

# 霊性センターニュース

## \* 年間購読(郵送)のご案内 \*

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号休刊を除きます）  
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、  
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、  
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25  
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

[tokyo@carmel-monastery.jp](mailto:tokyo@carmel-monastery.jp)

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい。

\*何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171 Fax: 03-3704-1789

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google: 「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

## 『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

### 「霊性センターへの献金」のお願い

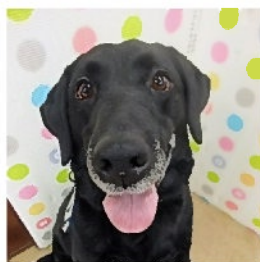
「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



(この犬ではありません。)

### 編集後記

先日、お盆のためごった返していた札幌千歳空港での出来事。手荷物預かりのカウンターに並んでいると、ずっと先に大きな黒のラブラドル犬がいた。お母さんと娘さんがこれまた大きな犬小屋の中に、この犬を入れようとしていた。だが、何度やっても犬はいやがって入らない。犬もどこかへ飛ばされてしまう、捨てられてしまうと考えたのだろうか。お母さんが犬の顔を見ながら「これに入らないと、家に帰れないのよ！」と何度も言い聞かせながら、犬を抱き上げる。娘さんは、犬小屋にドッグフードを入れ、扉を開いて待ち構える。しかし、何度やっても、頭が入ると、後足が入らず、後足が入ると、頭が飛び出るといった知恵の輪のような状態になっていた。

私の順番が来て、荷物を預け終わった後も、母娘でまだやっている。見かねて、手を貸した。三人がかりで、三度目に何とか成功。その間、犬は暴れたり、かみついたり、ワンワン吠えたりすることもなく、実におとなしく、人間よりずっとお行儀がよかった。目のくりくりしたかわいい犬だった。 (P.九里)



### 製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に毎月最終週の火曜日に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「11月号」製本日 10月25日(火) 上野毛教会信徒会館ホール 1階  
午後1時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171